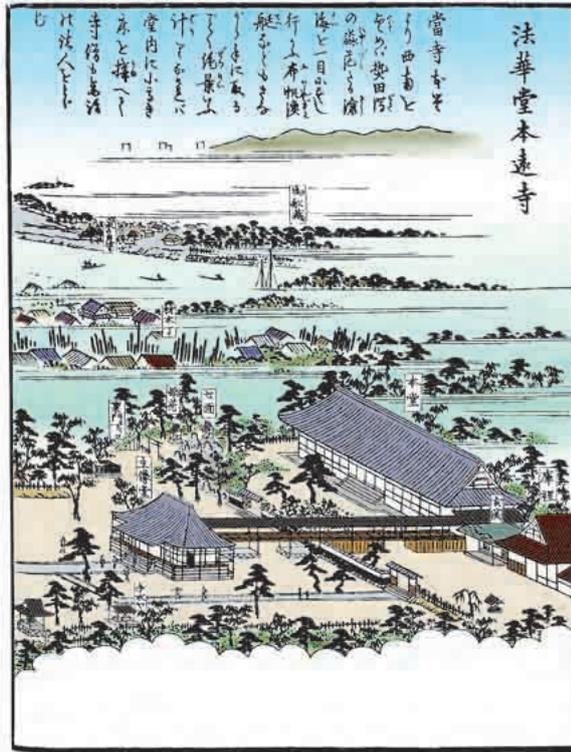
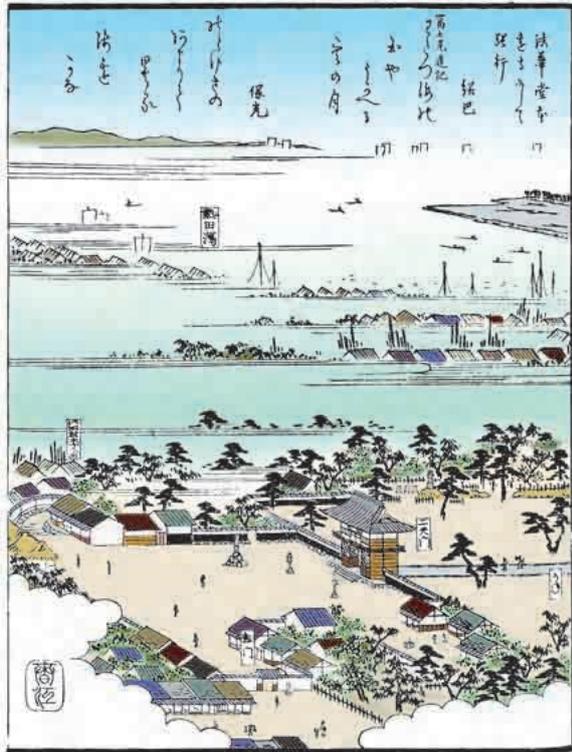


なごやのまち
今昔

尾張名所図会

法華堂本遠寺

熱田区白鳥二丁目



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の法華堂本遠寺とその周辺の様子です。

本遠寺は、1326年～（嘉暦年間）、日蓮聖人の孫弟子にあたる日澄上人が、熱田神宮から法華堂を譲り受け本堂とし、現在地に建設したのが始まりとされ、妙光山法華堂本遠寺と称される日蓮宗の寺院です。創建以来、堂、塔、伽藍などが整備され当地有数の名刹と言われていました。大平洋戦争のため全山焼失しましたが、現在、法華堂、本堂など再建されています。

また、伝教大師（最澄）が熱田神宮境内のお堂で法華経を読誦して天下泰平、五穀豊稔を祈願されたことから、このお堂を法華堂と称されるようになりました。

9月14日当寺で行われる水齋会（川施餓鬼）は、1723年（享保8年）の暴風雨による多大な犠牲者の祟りを鎮めるため法要が営まれたことに始まり、日本三大施餓鬼の一つとされています。

図会では、本堂より西南に広くとした蒼い海の熱田潟が広がり、行き交う布帆漁艇など手に取るような素晴らしい景色が見られ、寺僧も参詣の諸人も足を止め眺めていたと書かれています。

現在では、新田開発、埋立などにより海岸線は遠く、多くの建物も建ち込み様子は一変しています。



本遠寺



法華堂



堀川から望む本遠寺

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
「尾張名所図会 前編四」岡田啓 / 著 愛知県郷土資料刊行会 (Sc-ア)
「熱田風土記第八巻」池田長三郎 / 編 (Sc-ア)
「尾州雑誌第七巻」愛知県郷土資料刊行会 / 発 (Sc-ア)
「熱田区誌」熱田区制五十周年記念誌編集委員会 / 編 (2B21 87)
「史跡あつた」熱田研究よもぎ会 / 著 泰文堂 (Sc-ア)